

お寄せいただいたご意見とその回答

※ご意見については、できるだけ原文のまま掲載していますが、個人情報等そのままの掲載では支障があると思われる箇所あるいは整理上のわかりやすさ等から、一部、最低限の加除修正等をしている場合があります。

※連続した質問内容のものもありますが、できるだけ一問一答方式で整理しています。

ご意見	回答
ニセコミライ事業の計画継続について ニセコミライ事業について、企画・計画段階における重要な意思決定について確認します。 私は、当時本事業の建築面に関わっていた専門家本人から、計画当初の段階で、事業に必要な建築コスト等を考慮すると、当初想定されていた予算では町民が購入できる価格帯に収めることが困難であり、このまま計画を進めることは難しい旨の指摘を町側に行っていたとの説明を直接受けています。（本人にお会いして直接聞きました。本人の承諾も受けています） この指摘は、単なる建築仕様についての意見ではなく、「事業計画そのものと予算が合わず、最終的な販売価格を町民が購入できる水準にすることが困難である」という、事業の根幹に関わる問題だったと認識しています。 そこで、以下について明確に回答してください。 1. この指摘を町は認識していたのか 企画・計画段階において、当時の専門家から、「この事業計画と予算では、町民が購入可能な価格帯に収めることは困難である」という趣旨の指摘を受けていた事実があるのか、明確に回答してください。 「ある」「ない」を明確にした上で、ある場合には、その指摘が行われた時期と、指摘を受けた町側の担当者を明らかにしてください。 2. その指摘を受けた後、誰が事業を継続すると判断したのか そのような指摘を受けたにもかかわらず、計画	ニセコミライ事業については、2018年の計画づくり開始以降、SDGs 未来都市ニセコ町の中核事業として、町民公募委員や専門家を含む協議会、住民説明会等を通じて、様々な観点から検討を重ねてきました。その過程では、事業への賛同に限らず、事業費、販売価格、住宅の仕様その他について、改善や見直しを求める意見も寄せられており、社会情勢や事業環境の変化も踏まえながら、必要な検討を行ってきたところです。 今回のご質問は、ご質問者が第三者から聞いたとされる発言を前提として、その発言の有無、関係者の認識や判断、事業継続との因果関係及び当該専門家の関与が終了した理由等について回答を求めるものです。 町の回答は、町が保有する行政文書その他の客観的な記録によって確認できる、町としての正式な意思決定及び行政上の事実に基づいて行うものです。第三者の発言内容、認識若しくは意図、又はそれらを前提とした因果関係について、個別の照会に応じて町が調査、認定又は評価を行うものではありません。また、関係者の氏名、発言時期その他の情報が示された場合であっても、町が契約当事者ではない契約関係、株式会社ニセコまちの内部における業務上の判断又は第三者間のやり取りについて、町から個別に回答することはできません。なお、町としての意思決定については、計画、予算、出資その他の案件ごとに、町の決裁手続や議会の議決等、所定の手続を経て行っています。また、事業実施主体である株式会社ニセコまちの業務執行上の意思決定については、会社法及び定

を再考・中止・縮小するのではなく、事業をそのまま前に進める判断をしたのは誰なのか、明らかにしてください。

町長、副町長、担当部署、その他の関係者のうち、最終的に事業継続を判断した者及びその判断を行った時期を回答してください。

3. なぜ、専門家の指摘を踏まえて計画を再考しなかったのか

当時の専門家から、予算と計画が合わず、町民が購入できる価格帯に収めることが困難であるとの指摘があったのであれば、当然、その指摘を踏まえて事業計画を再検討する必要があったのではないかと考えます。

それにもかかわらず、町が計画を継続することを選択した理由は何だったのでしょうか。

「専門家から事業計画そのものについて重大な問題が指摘されていたにもかかわらず、それでも事業を進めると判断した具体的な理由」を回答してください。

4. 専門家を計画から外す判断をしたのは誰なのか

その後、当該専門家がニセコミライ事業の計画・実施から外れることになった経緯について確認します。

当該専門家を事業から外す、担当を変更する、または関与させないという判断をしたのは誰なのか、明らかにしてください。

また、その判断が、

「事業計画と予算が合わず、町民が購入可能な価格帯に収めることが困難である」という当該専門家の指摘と関係していたのか

についても明確に回答してください。

5. 最も重要な点について

本件で私が確認したいのは、現在のニセコミライの建築仕様や個別の契約内容ではありません。

問題は、事業の企画段階において、専門家から「この計画と予算では町民が購入できる価格

款に基づき、取締役会、株主総会その他の所定の手続により行われています。

以上の理由から、ご質問の各項目について個別の回答は行いません。本回答又はこれまでの回答と同一若しくは実質的に同一の内容については、関係者の氏名等を追加した場合を含め、町として新たに回答すべき行政上の事実がない限り、本回答をもって回答済みとします。

帯に収めることは困難である」と指摘されていたにもかかわらず、その指摘を受けて事業そのものを再考するのではなく、計画を前に進めるという判断がなされたことです。

したがって、

- ・ 誰がその指摘を受け、
 - ・ 誰がその指摘を踏まえても事業を進めると判断し、
 - ・ なぜ再考せずに事業を継続することが適切だと判断したのか、
 - ・ そして、なぜ指摘を行った専門家がその後の計画から外れることになったのか、
- この４点について、曖昧な説明ではなく、具体的な事実関係に基づいて回答してください。

また、この判断に関する会議録、協議記録、決裁文書、その他の記録が存在する場合には、その存在についても明らかにしてください。

以上、町民が購入可能な住宅を供給することを目的の一つとして進められた事業であるからこそ、当初からその実現可能性について専門家から重大な指摘があったにもかかわらず、なぜ計画を再考せず進めることになったのかについて、町として明確な説明を求めます。